

カテゴリー（該当するものに✓を付ける）： ☐ 研究論文 ・ ☐ 実践研究論文 ・ ☐ レビュー論文
ページ数： X ページ ※ページ数を記入。原則20ページ以内（図表、注、引用文献含む）

日本語タイトル (MSゴシック太字12pt)

—日本語サブタイトル (MSゴシック太字12pt サブタイトルが無い場合は削除)

English Title (Arial Bold 12pt)

English Subtitle (Arial Bold 12pt サブタイトルが無い場合は削除)

キーワード：□□□、□□□、□□□、□□□、□□□ (3～5語 MSゴシック10.5pt)

Keywords: aaaa, bbbb, cccc, dddd, eeee (3-5 keywords, Arial 10.5pt)

要旨(一段落**500**字以内 MS明朝**10.5pt**)

Abstract(一段落200ワード以内 Times New Roman 10.5pt)

[illegible]

※テンプレートの余白幅、行数、文字数、フォントサイズ等は変更しないこと。

※本文の日本語はMS明朝(10.5ポイント)、英数字はTimes New Roman(10.5ポイント)を使用する。日本語原稿内の英数字(例えば外国語文献引用時の著者名、発行年など)もTimes New Romanを使用すること。英語原稿の場合は全てTimes New Romanを使用する。

1. ○○○○（見出しは原則として3段階以内とする。項目番号の後は全角スペースを入れる）

[illegible]

[illegible][illegible]

2. ○○○○

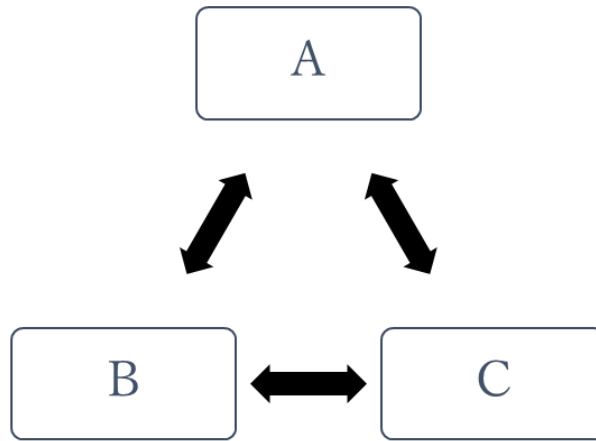
[illegible]

2.1. ○○○○(レベル2の見出しは2.1のようにする。後ろに全角スペースを入れる)

2.1.1. ○○○○(レベル3の見出しは2.1.1のようにする。後ろに全角スペースを入れる)

[illegible][illegible]

図表1 ○○に関する概念図
(図表タイトルは図表の上部中央に記載する)



注)□□□□□□□□□□□□□□□□
出典:□□□(2020)を基に筆者作成
(注や出典を記載する必要がある場合は図表の下部中央に記載する)

3. ○○○○

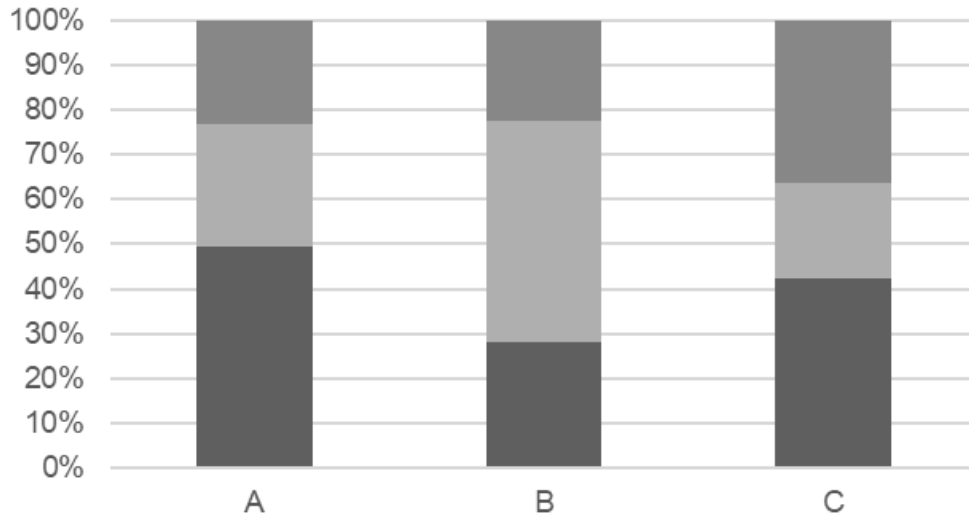
A large grid of 100 small squares arranged in 10 rows and 10 columns. The grid is used for a math problem involving the area of a rectangle. The bottom-right corner of the grid is labeled with a superscript 2, indicating the area is 10^2 .

□ □

4. ○○○○

[illegible]

図表2 ○○の結果

[illegible]

5. ○○○

[illegible]

謝辞・付記（※論文の掲載が決定した後に追記する）

※謝辞・付記については、投稿時は原稿には記載せず、投稿申込フォームの所定の欄に記入する。論文の掲載が決定した後に原稿に加筆する。投稿の際、「謝辞・付記（※論文の掲載が決定した後に追記する）」の見出しは削除せず、そのままとする。ただし、謝辞・付記に記載する情報が無い場合（論文採択後も謝辞・付記に記入する情報が無い場合）はこの項目は削除する。

注

- [illegible]

※執筆要領に記載の通り、引用文献を明記する際は、注ではなく本文中に記すこと。注は補足的な説明など最小限にとどめる。注を必要とする場合は、脚注ではなく後注としてまとめ、その際「1）」、「2）」のように注番号をつける。本文中の注の番号は、該当箇所の右肩に「〇〇¹」のように上付き数字でつける。特段の理由があり注で文献情報を提示する場合は、「鈴木（2020）では・・・」や「観光庁（2025）によると・・・」のように著者名（機関名）、出版年を記載し、文献情報は引用文献リストに掲載する。

引用文献（引用文献には、見出し番号を付けない。見出しは「引用文献」とする）

A 10x10 grid of squares, with each square containing a small black dot in the center.

※本文中で引用したすべての文献（直接引用および間接引用）を漏れなく記載すること。参考として読んだが本文中で引用していない文献等は引用文献リストに含めてはならない。

※引用文献リストは、日本語文献・欧文文献の順に記載し、著者名のアルファベット順に並べる（日本語文献も著者名のアルファベット表記の場合のアルファベット順とする）。同一著者に複数の文献がある場合には、出版年順に記載する。

※1つの文献の表記が2行以上にわたる場合、2行目以降を全角2文字(半角4文字)分字下げする。

※引用文献リストには、文献番号や箇条書き記号(黒丸など)を付けない。

※出版地(出版社の所在地)は入れない。

※雑誌論文でDOIが付与されているものは原則として全て記載する。オンライン公開論文でDOIが付与されていない場合はURLを記載する。

その他詳細は執筆要領参照のこと。

引用文献リストの記載例(詳細は執筆要領参照のこと)

石崎祥之・廣岡裕一・大島知典 (編著) (2022).『変化する宿泊ビジネス』文理閣.

鎌田裕美・上原渉 (2022a), 「訪日リピーターの拡大に向けて」『運輸と経済』82(12), 48-54.

鎌田裕美・上原渉 (2022b). 「コロナ禍での観光客の受け入れ—観光地の住民態度」『一橋ビジネスレビュー』64(2), 16-24.

- ビュー』70(2), 62–77.
- 児島幸治 (2010). 「株式取引方法変更が資本コストに及ぼす影響」桜井久勝 (編著)『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有用性検証』(pp. 443–467) 中央経済社.
- 日本経済新聞 (2023). 「地域観光の再生後押し 観光庁、訪日客の取り込み急ぐ139事業支援／11モデル地域選定」3月29日, p.5.
- 大野富彦 (2022). 「地域連携DMOの活動展開プロセス—DMOとステークホルダーの関係からの考察」『観光マネジメント・レビュー』2, 46–59. https://doi.org/10.50984/jptmrvone.2.0_46
- Ikeji, T., & Nagai, H. (2020). The expansion of peer-to-peer accommodation rentals in Japan: Issues and challenges. In R. Sharpley & K. Kato (Eds.), *Tourism development in Japan: Themes, issues, and challenges* (pp. 257–275). Routledge.
- Morgan, N., Pritchard, A., & Pride, R. (2007). *Destination branding*. Routledge.
- Zainal-Abidin, H., Scarles, C., & Lundberg, C. (2023). The antecedents of digital collaboration through an enhanced digital platform for destination management: A micro-DMO perspective. *Tourism Management*, 96, Article 104691. <https://doi.org/10.1016/j.tourman.2022.104691>

※投稿時、青字の指示部分・引用文献リストの例は削除すること。